慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	国民国家の形成における政治分析の枠組み： 政治人類学と比較政治学に関する一考察
Sub Title	A framework for political analysis in nation-building process : the implications of political anthropology and comparative politics
Author	阿久津, 昌三(Akutsu, Shozo)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1982
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.22 (1982.) ,p.11- 21
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000022-0011

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

国民国家の形成における政治分析の枠組

——政治人類学と比較政治学に関する一考察——

A Framework for Political Analysis in Nation-Building Process: The Implications of Political Anthropology and Comparative Politics

阿久津　昌　三
Shozo Akutsu

Since 1959, when the political scientist, David Easton, commented critically on the state of political research by social anthropologists, anthropology has tried to move beyond the study of small units of investigation such as kinship groups, villages and neighborhoods to the holistic analysis of large-scale systems like tribes, or nation-states. But less attention was given to medium size units of analysis within nation-states.

In this paper I attempt to follow up, qualify, and elaborate upon some working hypotheses derived from political analysis in the light of empirical data from political anthropology and comparative politics. It is important to realize that local politics has been investigated and described in three quite different contexts as following:

(1) The oppositional context: fission or fusion between social groups like tribe, clan, lineage and kinship.

(2) The local socio-economic context: forms of political power, social stratum, social relations, family types, economic exchanges, demographic structure, social stratification, and value system.

(3) The external political context.

These three quite different contexts have interdependent relationships, and form "loosely-structured social systems" from the viewpoint of allied concepts of patron-client network and faction. We need to analyse empirically medium size units to provide a link between macro analysis and micro analysis which would be of theoretical importance to the sociology of historical change.

I　序

現代アフリカ社会における国民国家の形成の考察は，西欧型の国民国家の発展のプロセスと著しく異なるがゆえに特殊な困難をともなう。それは，第1に，アフリカ社会の国民国家の形成の発展形態が特殊なパターンをもつことと，第2に，「西欧で始まり，その後，全世界をそのダイナミックスの中に組みいれるにいたった，時代を画する，長期的で，しばしば暴力的な形をとった一つの変動」[1] のインパクトにともない，その結果として，社会変動が内発的発展と外発的発展との重層構造をもつ変動過程にあるからにほかならない。

アフリカ社会の国民国家の形成の発展形態が，その出発点から，特殊な発展のパターンをもって抬頭してきたことは確かであるが，欧米の国民国家の辿ってきた発展の径路とは異なるという理由で，発展形態の畸形だけが強調される「特殊性論」は，普遍性と特殊性との両者の接点において検討されねばならないであろう。

それぞれの国民国家の形成の発展形態は，個別的歴史的な観点からみれば，特殊的であることは明らかであるが，「国民国家」の概念が，ヨーロッパの歴史的＝文化的な文脈の中から派生してきた概念であることを考えてみるならば，「その社会に見られる独自の『内的論理』の認識枠」[2] から「国民国家」の形成の発展形態を分析

することが必要になってくる。

また，普遍的な観点からみれば，西欧型の国民国家の形成の発展形態が，すべての地域の発展形態あるいは発展過程に共通する普遍的なパターンをもつとされる。発展途上諸国の政治発展の分析の典型とされる「社会システム」理論は，境界規定と境界維持というアプリオリな仮定に依存しているのである。「システムの境界は，あまりにしばしば，無造作に国民的境界と同一視され『システム』そのものは国民国家的社会と同一視されている」[3] ために，アフリカ社会の国民国家が恣意的・偶然的に区切られた境界であることを無視することになる[4]。このようなアプリオリな仮説にもとづいて構築された国民国家の形成の発展分析は，発展途上諸国の国民国家の形成が普遍的なパターンからはずれるものとして，偏奇現象（逸脱事例）のレッテルをはることになる。

筆者は，このような点で，普遍性と特殊性との両者の接点において実証的に分析する調査研究を必要とすると考える[5]。最近の歴史社会学の動向は，普遍・特殊の関係を特殊・特殊の関係に転換する新しいパラダイムの中で実証的な比較分析の視点を提起している[6]。

しかし，特殊・特殊の関係から普遍的な一般化がなされるわけではない。特殊・特殊の関係を検討するためには，両者の差異[7] を分析するための比較可能な基準を必要とする。たとえば，研究者が事例をとりあげるときには，何らかの比較可能な基準の暗黙の認知が働らいており[8]，その結果として，理論，主題，概念のそれぞれの選択がなされている。したがって，事例研究が特殊な事例であるとしても，思考の中では，絶えず，普遍と特殊との相補的な関係において作業がおこなわれているわけである。

歴史社会学の比較分析は，(1) 平行型の比較史，(2) 対比型の比較史，(3) マクロ分析型の比較史に分類される

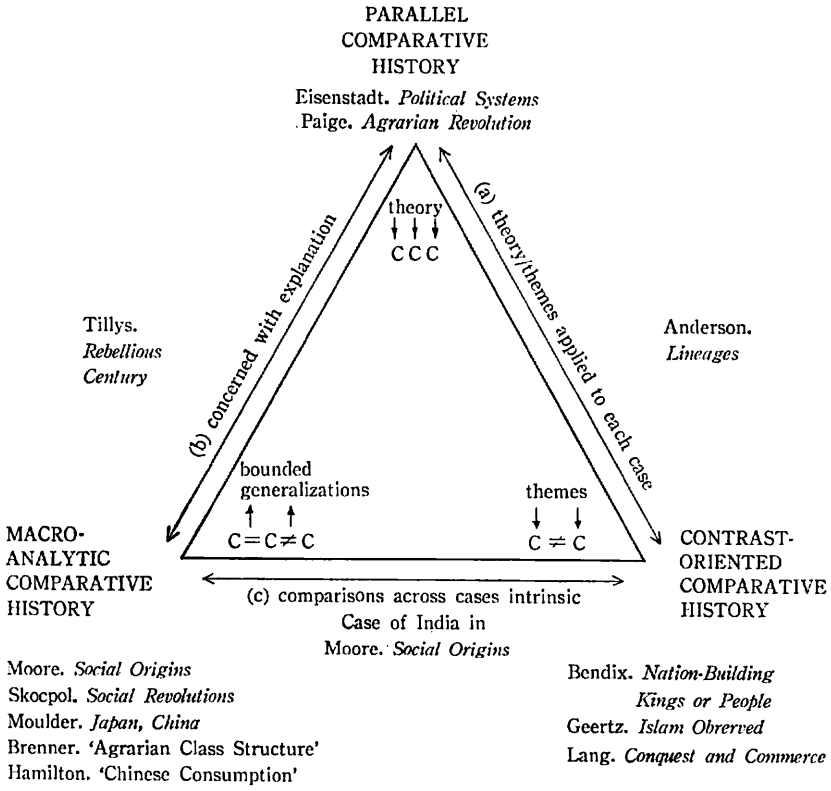

図 1　The Triangle of Comparative History

Source: Theda Skocpol and Margaret Somers, "The Uses of Comparative History in Macrosocial Inquiry," Comparative Studies in Society and History 22(2) (April 1980): 188.

が[9]，実証的な社会学的調査は，平行型・対比型・マクロ分析型の幾つかの組み合わせと循環の作業の経過の中で，普遍性と特殊性との接点を探求するものである（図1参照）。

しかし，アフリカ社会の国民国家の形成の発展形態について分析する場合には，歴史社会学の比較分析がなされるほどには十分な実証的な調査研究の蓄積があるかどうかは疑わしい状況である。

普遍性と特殊性の分析枠組が，文化人類学，比較政治学の学問領域において，いまだ未熟な段階にある状況のもとでは，2つの学問領域の共通の公分母の観点から分析することがまず必要であろう。本稿は，アフリカ社会の国民国家の形成過程において，地域社会の社会動態がどのように結びついているのかを検討するための政治分析の枠組を提示することが課題である[10]。

II　政治行為の動態

ディヴィッド・イーストン (David Easton) によって未開社会の政治領域の人類学的分析の批判がなされて以来，政治人類学は文化人類学の下位領域としてある程度の合意を得るようになった[11]。さらに，ジョルジュ・バランディエ (Georges Balandier) は，社会動態の現象の諸位相を，

(1)　同質的な歴史条件の中に生ずる動態
　(a)　内的な相（当該社会の構造の固有の運動）
　(b)　外界との関係における相（「類縁的」な社会との接触の結果生ずる相）
(2)　とくに植民地支配時代以後の，異質的な歴史条件の中に生ずる動態

に分類し，政治の動きを国家の形成過程，政治権力の諸形態，階層構成などの変化と関連させる試みをおこなっている[12]。イーストンの行動論政治学とバランディエの動態論人類学は，アフリカ社会の政治の構造と生きた歴史の動態の分析というように，それぞれ，普遍と特殊の逆のヴェクトルを指向しているように思われる。

バランディエの政治人類学が，「未開社会」の政治の動きを歴史性に回帰させる政治史[13]として位置づけられるとすれば，われわれの政治人類学は，現代性と歴史性とのダイナミックスの中で，政治の領域をとりまくもろもろの状況がどのように変動するのかを検討するものである。

政治人類学とは，国民国家の形成の中にあって，政治権力の諸形態，階層構成，社会関係のネットワーク（親族関係・友人関係・パトロン-クライアント関係），家族形態，経済交換，人口動態などの政治，社会，精神，技術の諸現象の歴史との関連において，伝統的な基礎社会の政治動態の変容過程を分析する実証的な調査研究である。

このような視点にたって，伝統的な基礎社会の政治動態の変容過程を分析するためには，どのような分析枠組が必要であろうか。文化人類学は，現在，第三世界とよばれる国民国家の内部に含まれる伝統的な基礎社会を研究対象としてきた学問である。そして，伝統的な基礎社会の文化変化の過程，特に，異なった文化をもつ社会との接触の結果として生ずる文化変化の過程について歴史的，構造＝機能的な分析がなされてきたが，文化人類学においては，伝統的な人類学的調査そのものが問い直されていることも確かである。

しかし，アフリカ社会の伝統的な基礎社会の政治動態の変容過程について分析するためには，批判的＝危機的人類学の主張する論点を踏えながら[14]，民族誌の基礎資料を比較分析の方法に基づいて再検討することが必要である。すなわち，第三世界全体にまたがる伝統的な基礎社会の政治集団の動態に関する基礎資料を比較検討することによって，比較可能な基準を示すことである。

伝統的な基礎社会は，現代的な国民国家における最も小規模な社会単位である。アフリカ社会の国民国家が，恣意的，偶然的に区切られた境界であるとしても，そこに住む人々は，突如として，基礎社会の枠を越えて広い政治的な地平を認識するようになる。政治人類学は，そのような意味で，伝統的な基礎社会の政治動態のみならず，政治意識の変化をも対象とせざるを得ない。

ジャネット・M・ブジラによって示された基礎社会の中に発生する政治集団の動態のモデルは，他の地域との比較可能な基準として6つの変数（構造，リーダーシップ，補充，タイム・スパン，競争のプロセス，広範囲な社会・政治システムとの関係）をあげている[15]。（表1参照）

伝統的な基礎社会は，外部の政治・社会システムの影響を受け，基礎社会内部の政治権力の諸形態，階層構成，社会関係，経済交換，人口動態などを流動化される。外部の政治・社会システムは，基礎的な地域社会内部の社会的カテゴリー（社会階級，エスニック・グループ，世代など）によって生ずる分裂のみならず，新しい分裂と融合の形態を生みだす。

ファクション (faction) から政党への連続体モデルは，一方から他方へ，また，他方から一方への動態を含みうるけれども，「そのような移行は集団現象に内在する契機や論理からは説明されず，たかだか集団の量的規

表 1

"FACTION"	VARIABLE	"PARTY"
Simple: The leader, his clique (the core of the faction) and his supporters. Faction is a quasi-group—lineal relations between leader or intermediaries more significant than lateral relations between followers.	Structure	Complex: Party is a system of interrelated roles with rule-governed relations between them. Lateral relatedness of ordinary members is politically functional.
Arises spontaneously; leader is focus of all action. No rules of succession. Leader is active in recruiting supporters.	Leadership	Leader is appointed or elected according to rules. He is the spokesman for the members' interests.
According to all the diverse and generally individual ties a leader may have. Because of this factions cross-cut existing groupings, and thus divide community vertically. From followers' point of view, support is related to short-term individual interests.	Recruitment	Members recruit themselves according to common interests. Parties thus tend to follow the lines of existing and generally horizontal groupings. Members share long-term common interest and ideologies.
Relative impermanence.	Time-span	Relative permanence.
Actions may affect all social fields since the faction is relatively unspecialized and also cross-cuts existing groupings. Actions often covert, governed by pragmatism and expediency.	Process of Competition	Actions specialized in recognized political field, governed by rules and overt.
Informal and uninstitutionalized.	Relation to wider social and political systems	Formal and institutionalized.

Source: Janet M. Bujra, "The Dynamics of Political Action: A New Look at Factionalism," American Anthropologist 75(1) (Feb. 1973): 134.

定性という指標で処理されるにすぎない」[16]という欠点がある。

政治行為の動態分析のためには，アフリカ社会の構造＝機能分析（社会人類学のエヴァンス＝プリチャード，フォーテス，ラドクリフ＝ブラウン，グーディー，比較政治学のアーモンド，コールマン，アプター），闘争・権力理論（エスニック闘争モデル），交換理論などの分析視点のほかに，歴史社会学の分析視点を必要とするであろう[17]。

また，政治行為の動態は，次のような政治，経済，社会，文化の文脈の中で，6つの比較可能な変数によって歴史社会学的に分析されねばならないであろう[18]。

(1) 対抗的な文脈 (oppositional context)—基礎社会（地域社会）内部の部族，クラン，リニージ，親族などの社会集団によって生ずる対抗的な分裂，融合の動態。

(2) 地域的な社会＝経済的文脈 (local socioeconomic context)—政治権力の諸形態，階層構成，社会関係，家族形態，経済交換，人口動態，社会成層，神話・宗教・慣習・イデオロギーなどの価値体系。

(3) 外部的な政治的文脈 (external political context)

—(a)国民国家の政治システム，(b)地方行政構造，(c)地方統治構造，(d)政策[19]。

対抗的な文脈，地域的な社会＝経済的文脈，外部的な政治的文脈から分析する政治行為の動態分析は，人間・文化の存在形態としての社会関係の形態の関係性の視点からとらえられねばならない。「人間の存在形態としての社会関係の構造はもちろん人間の構造的意味から出るものでなければならないから，それは個人（個体）と集団(全体)との直接なる相互媒介でなければならない」[20]。

さらに，社会関係は，「固定不動のものとしてはあり得ないから，その生成される過程と形成された相とが連関」している「目の粗い」社会構造（"loosely" structured social systems）としてとらえられ，また，社会関係は，歴史性と集団性（社会性）との相互媒介[21]によって考察されねばならない。

人間・文化の存在形態としての社会関係は，個々の基礎社会において自己完結的な組織系として形成されるのではなく，他の基礎社会との社会関係とによって相互補完的に形成される。社会関係の累積が，「都市を核とする集落関係のネットワークをひろげ，そこに地域を形成する」[22]ものであるから，ひらかれたシステムとして対抗的な文脈，地域的な社会＝経済的文脈，外部的な政治的文脈との関連において分析することが必要である。

社会関係は，社会関係の成員の相互関係の形態を基準とすれば，家族，リニージ，クラン，村落，都市，親族関係，友人関係，パトロン－クライアント関係，近隣関係などがあげられる。また，社会関係の成員の相互関係の形態は，文化を規準とする社会関係の形態と密接に関わり合っている[23]。たとえば，宗教団体，政治団体，経済団体，アソシエーション，クラブ，エスニック・グループ，娯楽機関などは，社会関係の成員の相互関係の形態を基準とする社会関係によって，同時に，説明されねばならない。

社会関係の重層的な累積は，ただ単に，個人間の相互作用として存在するのではなく，歴史的に規定された価値体系から派生する個人間・集団間の相互関係が蓄積された結果として生ずるものである。したがって，社会関係は，観察可能な個人間・集団間の相互関係の形態のみならず，社会の成員によって意識されない相互関係の形態をも含めて考察されねばならない。

1960年代以降，比較政治学においては，社会関係の形態の考察がなされるようになった[24]。そのひとつの主題であるパトロン－クライアント関係（patron-client relations）は，第1に，社会交換として生活の中で中心的な意味をもつ社会関係であり，また，交換は単純な相互関係から派生し，より複雑な相互関係の中に派生するものである。第2に，パトロン－クライアント関係は，システムの構成要素の内部に潜在する，また，構成要素の間にある構造的矛盾であると同時に，構造の外部とのひらかれたシステムとしてのパラドックスをもっている。第3に，パトロン－クライアント関係は，アジア，アフリカ，ラテン・アメリカの社会構造の比較分析のための比較政治学の一大テーマである。

社会変動状況のもとでは，社会関係の形態は，新しい分裂と融合のパターンとしてのファクション[25]が生じることによって変形される。すなわち，歴史的に規定された価値体系から派生する個人間・集団間の相互関係は，社会変動の適応過程の中で生じた新しい価値体系から派生する個人間・集団間の相互関係との葛藤によって変形される。

ファクションにみられる政治行為の動態は，構造的，規範的，行動的な3つの側面において分析されるが，構造的には，(1)拡散的な村落レベル，(2)広範囲な社会と社会分節との関係，(3)ハイアラーキー構造における権力の集中のレベルに類型化される[26]。

(1) 村落型（village-type factionalism: the small, homogenous community)—村落型の典型的な権力構造は，権力と地位をめぐる同格の家族，リニージ，クランなどから構成される。ゲームへの接近は，政治権力の諸形態，階層構成，社会関係，家族形態，社会成層，経済成層，人口動態，土地保有形態などの地域的な社会＝経済的文脈によって規定される。

(2) 多重コミュニティ型（poly-communal factionalism)—それぞれのコミュニティは，外部的な政治的文脈によって結ばれる。社会関係の重層的な累積は，村落型よりもさらに複雑になり，都市・村落関係などの新しい社会関係を生みだす。

(3) ハイアラーキー型（hierarchical factionalism)—権力をめぐる競争は，構造化された組織内部の権力闘争の一部である。（図2参照）

ファクションの構造は，対抗的な文脈，地域的な社会＝経済的文脈，外部的な政治的文脈と密接に関わり合っているが，このような視点からとらえる社会関係の成員の相互関係の形態は，「目の粗い」社会構造の位相を分析するのに役に立つ。この意味では，社会関係の成員の相互関係の形態は，(1)地域社会の在来規制力となる環境とのからみあい，(2)社会変動にともなう環境諸条件の変化，(3)社会変動によってひき起こされた環境諸条件が

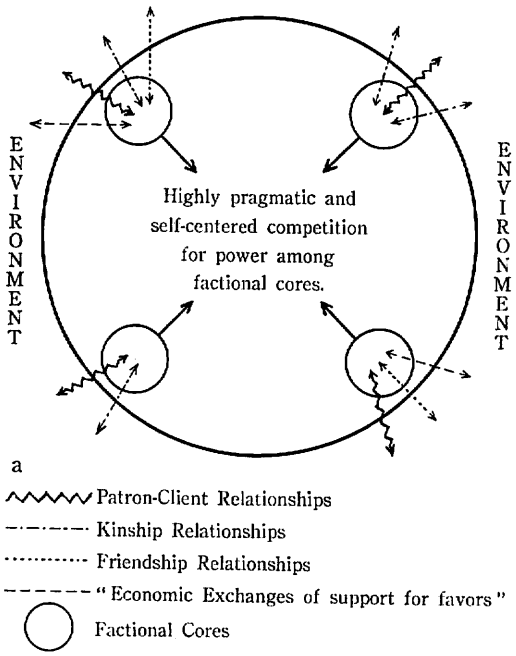

図 2

Source: Norman K. Nicholson, "The Factional Model and the Study of Politics," Comparative Political Studies 5(3) (Oct. 1972): 300.

もたらす地域社会への逆方向のインパクトというような内的・外的環境との関連においてとらえられねばならない。

III 社会発展と社会関係の形態

社会関係の成員の相互関係の形態を基準とする社会関係として，筆者は，家族，リニージ，クラン，村落，都市，親族関係，友人関係，パトロン－クライアント関係，近隣関係などをあげた。社会関係の形態は，社会発展のそれぞれのレベルにおいて，どのような形態をもち，また，どのように変動するのであろうか。都市に居住する社会層の事例をあげながら，社会発展と社会関係の形態との関連について考察することにしよう。

社会発展のそれぞれのレベルにおいて，社会関係の成員の相互関係の形態は，異なった社会関係の形態をとる。政治・社会発展論の単純なモデルからすれば，社会発展にともなって，伝統的な社会関係の形態が消滅し，新しい近代的な社会関係の形態が発生するというような二分法として位置づけられるが[27]，近代的な社会関係の形態の中には，伝統的な社会関係の形態をも内部に含んでいることは明らかである。どのような社会関係の形態を内部に含むかは，地域的な社会＝経済文脈，都市－村落関係，社会発展のレベルによっても異なってくる。

ジャック・マケ (Jacques Maquet) は，アフリカ社会の基本的な社会関係のモデルとして，親族関係，婚姻形態，政治権力の諸形態，平等と不平等，封建制，結社（アッシエーシヨン），経済交換をあげている[28]。これらの基本的な社会関係は，基礎社会の社会関係の形態のひとつの社会的現実であるが，より重要な問題は，社会関係の形態がどのように変化するのかということである。社会関係の形態の変化という現象をとらえるためには，都市および村落に居住する社会層の社会関係の形態が，＜伝統的＞な社会関係と比較した場合に，それぞれの社会発展のレベルにおいて，どのような差異がみられるのかを検討することが必要であろう。

社会発展のレベルによって，都市および村落のセクターの「政治参加」の基礎的な社会集団は，表2のように表わされる[29]。パトロン－クライアント関係，近隣関係，親族関係，リニージ，クランなどの社会関係の形態は，社会発展にともない，より複雑な社会関係の重層的な累積によって地域社会を形成し，また，質的な転換はみられるが，伝統的な社会関係の要素を内部に含んでいる。

＜伝統的＞な基礎社会における不平等構造は，ひとつの閉鎖的な集団内部の対抗的な競合状態の均衡を維持することによって，政治権力の諸形態を規制するが，社会発展にともなって，パトロン－クライアント関係などの社会関係が，基礎社会の垂直な社会移動を可能とするよ

表 2

Level of Development of Society	Sector	
	Rural	Urban
Low	Patron-client	Elite faction
Medium	Patron-client or Class	Patron-client (*cacique*) Machine Neighborhood Communal group
High	Class/party	Class/party Neighborhood Communal group/party

Source: Samuel P. Huntington and Joan M. Nelson, No Easy Choice: Political Participation in Developing Countries (Cambridge: Harvard University Press, 1976), p. 55.

うなひらかれたシステムを形成するようになる。すなわち，外部的な政治的文脈による垂直移動の径路が，政治権力の諸形態を変化させる。このような意味では，社会関係の形態の多様化を示すものであるが，ただ単に社会関係の形態が多様化するのではなく，社会関係の質そのものが変化する。

政治権力の諸形態の変化と同時に，親族関係，階層構成，社会関係，家族形態，経済交換，社会成層などの社会関係の形態も変化し，政治的，経済的，職業的な垂直移動の径路は，新しい政治的，経済的エリート層，知識人層，中間層，貧困層などの社会層を発生させる。

垂直移動の径路としての政党政治の発達とともに，伝統的な基礎社会の社会関係の形態は，新しい分裂と融合のパターンによって変化する。基礎社会の歴史的に規定された系譜関係から派生する社会関係の形態は，政党という擬装的な社会集団を基盤とする社会関係の形態と対抗的な関係にある[30]。また，都市に居住するエスニック・グループもまた，<伝統的>な社会関係の形態の擬装のうえに，新しい社会関係の形態としてのアソシエーションを形成する。

都市のコミュニティは多数のエスニック・グループから構成されるが，エスニック・アイデンティティは，外部的な社会＝政治システムとの関係によって変容すると同時に，内部的な文化＝社会システムによる拮抗関係によっても変容する。近隣社会の異質性の増大と頻繁な相互作用は，子供の遊び仲間，青年クラブ，アソシエーションの形成などの社会関係の形態の発生にともない，エスニック・アイデンティティの変容を生じさせる。新しい価値体系を基準とする社会＝文化的統合の基盤は，都市に居住する異なったエスニック・グループの間の共同生活，婚姻率の増大，社会的ネットワークなどの生活構造のレベルにおける統合のプロセスとなるのに対して，社会＝経済的レベルにおいては，エスニック・グループの生業形態の明確な分離現象がみられる。エスニック・アイデンティティの変容は，近隣社会をとりまく地域的な社会＝経済的文脈を把握することによってのみ分析されるべきであろう。

都市に居住する異なった文化的背景をもつエスニック・グループのコミュニティの政治発展は，外部的な政治的文脈（(a)国民国家あるいは植民地政府の政治システム，(b)地方行政構造，(c)地方統治構造，(d)政策）の観点から発見文脈的に捉えられねばならない。外部的な政治システムとの社会的結合関係(sociabilité)は，パトロン－クライアント関係を中心とする垂直移動の径路としての社会関係の形態である。

都市に居住するストレンジャー(stranger)[31]は，外部的な政治システムとのパトロネージによって，地域社会を形成する。ストレンジャーが交易活動や労働者として経済システムに統合されているのに対して，政治的には参加形態の基盤を奪われているというのも現実である[32]。と同時に，宗教的，イデオロギー的，言語的，文化的，人種的，部族的な亀裂によって分断化されているアフリカ社会の政治的現実を捉える視点としての国家統合論は[33]，外部的な政治システムとのパトロネージによるエスニック・グループ内部の政治権力の諸形態の断片化を分析できないことを認識すべきである。

さらに，パトロン－クライアント関係を中心とする社会的結合関係の形態は，政治的，経済的エリート層，新旧中間層，貧困層[34]，ストレンジャーなどの社会層によってそれぞれ形態を異にする。この意味では，地域社会の政治発展の歴史分析は，地域社会における社会層間の政治権力の諸形態，階層構成，社会関係，家族形態，生業形態，経済交換，人口動態，社会成層，価値体系などを歴史的に比較検討することが必要である。

本稿は，アフリカ社会の国民国家の形成過程において，地域社会の政治動態をどのように捉えるのかを分析するために，政治人類学と比較政治学の研究動向を探究し，今後の実証的な社会調査の基礎となる方法論的検討をおこなってきた。最後に，以上のような検討において提起される問題点を要約して結語に代えたい。

第1に，政治人類学と比較政治学の2つの学問領域において，ディスプリン相互の間の統合研究による普遍的な分析枠組の模索という視座から，世界的規模で起きた政治・社会発展の結果として生じる諸問題（政治・経済システムの危機，人口増大，貧困，低開発など）を地域レベルにおいて実証的に調査研究しようとする視座の転換がみられる。

第2に，マクロ分析とミクロ分析との間のつりあいにおいて実証的に調査研究する場合に，中規模な分析の単位 (medium size units of analysis) をどのように設定するのかという問題である[35]。

第3に，中規模な分析の単位は，どのような社会関係の形態から構成され，また，歴史的に社会関係の形態はどのように変化し，単位間の相互作用による歴史的な比較分析はどのように位置づけられるのか。

第4に，構造論的アプローチと行為論的アプローチの相互媒介となる社会関係論的アプローチは，アフリカ社会の「目の粗い」社会構造を分析するためにどの程度有

効であろうか。

註

1) Hans-Ulrich Wehler, Modernisierungstheorie und Geschichte (Vandenhoeck. & Ruprecht in Görtingen, 1975) (山口定・坪郷実・高橋進訳『近代化理論と歴史学』未来社，1977年，9頁)
2) 十時厳周「経済発展に関連する非経済的要因について—経済人類学と経済発展の社会理論に関する若干の考察—」『法学研究』第45巻第3号，1972年，48頁)
3) Wehler. 前掲書，65頁。
4) 文化人類学者の川田順造氏は，「従来『王国』『帝国』などと規定されてきたモシの政治組織を，むしろこれまでは『国家』と反対の極に位置づけられてきた非集権的な分枝（環節）組織とのつながりで，その発展形態として」(『無文字社会の歴史—西アフリカ・モシ族の事例を中心に—』，岩波書店，1976年，156頁）捉えることを示唆している。国民国家の形成の発展分析は，文化人類学における国家の概念の再構成の作業をも包括していく新しい視点を必要とするであろう。
5) 十時厳周「工業化過程における文化動態について—日本工業化過程に関する一試論—」『法学研究』第36巻第4号，1963年。
6) 歴史社会学の形成と発展については，Victoria E. Bonnell, "The Uses of Theory, Concepts and Comparison in Historical Sociology", Comparative Studies in Society and History, 22(2) (April 1980): 156-173. を参照されたい。
7) John Stuart Mill, "Two Methods of Comparison", (excerpt from A System of Logic, 1888), in Comparative Perspectives: Theories and Methods, eds. Amatai Etzioni and Frederic L. Du Bow (Boston: Little, Brown, 1970), p. 206.
8) 「事例から何かを導きだすことができるのは，何らかの理論的前提であり，知識である」(曽根泰教「政治的知識の体系化—事例研究から理論まで—」『社会科学の方法』第12巻第12号，1979年，御茶の水書房，16頁)
9) Theda Skocpol and Margaret Somers, "The Uses of Comparative History in Macrosocial Inquiry", Comparative Studies in Society and History, 22(2) (April 1980): 174-197.
10) 国民国家の形成過程において，地域社会の社会変動をどのように直結させるのかという試みは，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所編『アフリカ社会の形成と展開』(同朋舎，1980年）にもみられる。富川盛道氏は，「優勢な部族語か土着レベルの言語をもちいるリングヴ・フランカ社会とは，ほとんどがヨーロッパ諸語のどれかを公用語とする，アフリカ国民社会の内部にあって，しかも小範囲の村落社会をこえた中範囲の地域社会である。その都市・村落関係は，伝統的な基礎社会とあたらしい国民社会をむすぶ回路で，それをつたわって交流する社会動態は，重要な研究課題のひとつである」(傍点筆者，iii) と指摘している。
11) David Easton, "Political Anthropology", in Biennial Review of Anthropology, 1959. ed. Bernard J. Siegel (Stanford: Stanford University Press, 1959), pp. 210-262. Maxwell Owusu, "Policy, Development and Political Anthropology", Journal of Modern African Studies 13(3) (Sept. 1975): 367-381.
12) ジョルジュ・バランディエ「動的・批判的人類学についての考察」(Réflexions sur une anthropologie dynamique et critique) 『民族学研究』第26巻第2号，1962年，134頁。Georges Balandier, Anthropologie politique (Presses Universitaires de France, 1967).
13) ジャック・ルゴフによれば，「本来の歴史研究の場においては，伝統的な政治史というものはもはや見放されている。そこから脱却しなければいけないというふうに云われているそのときに，人類学の方が政治の領域だけ，いわば政治史として歴史に近づいてくるというのは正しい方向ではないと思う」(傍点筆者)(「歴史学と民族学の現在」『思想』1976年12月号，630号，岩波書店，7頁）というバランディエの政治人類学の批判がなされている。しかし，人類学者によるすぐれた政治史の研究もある。John Tosh, Clan Leaders and Colonial Chiefs in Lango: The Political History of an East African Stateless Society c. 1800-1939 (Oxford: Clarendon Press, 1978).
14) Maxwell Owusu, "Ethnography of Africa: The Usefulness of the Useless, "American Anthropologist 80(2) (June 1980): 310-313.
15) Janet M. Bujra, "The Dynamics of Political Action: A New Look at Factionalism", American Anthropologist 75(1) (Feb. 1973): 132-152.
16) 塩原勉は，組織ないし集団現象をとらえる3つの発想形式として，Ⅰ完結封鎖タイプ，Ⅱ適応均衡タイプ，Ⅲ矛盾—媒介タイプをあげている。(塩原勉『組織と運動の理論—矛盾媒介過程の社会学』昭和51年，新曜社，4-5頁)。文化人類学の政治動態の分析は，集団の量的規定性という指標よりも，集団の独自の「内的論理」の認識枠をとらえようとするものである。
17) M. Fortes and E. E. Evans-Pritchard, eds., African Political Systems (London: Oxford University Press/International African Institute, 1940); E. E. Evans-Pritchard, The Nuer (Oxford: Clarendon Press, 1940); M. Fortes, The Dynamics of Clanship among the Tallensi (London: Oxford University Press, 1945); The Web of Kinship among the Tallensi (London: Oxford University

Rress, 1949); Kinship and the Social Order (Aldine Pub. Co., 1969); Jack Goody, The Ethnography of the Northern Territories of the Gold Coast, West of the White Volta (London: Colonial Office, 1954); The Social Organization of the Lowiili (London: H. M. S. O., 1956); Gabriel A. Almond and James S. Coleman, eds., The Politics of the Developing Areas (Princeton: Princeton University Press, 1960). David E. Apter, The Gold Coast in Transition (Princeton: Princeton University Press, 1955); The Political Kingdom in Uganda (Princeton: Princeton University Press, 1961); The Politics of Modernization (Chicago: University of Chicago Press, 1965) (内山秀夫訳『近代化の政治学』未来社，1968年); Some Conceptual Approaches to the Study of Modernization (Prentice-Hall, 1968). などの社会システム論分析がある。

闘争・権力理論（エスニック闘争モデル）としては，P. H. Gulliver, ed., Tradition and Transition in East Africa: Studies of the Tribal Factor in the Modern Era (Los Angeles, 1969): Colin Legum, "Tribal Survival in the Modern African Political System", Journal of Asian and African Studies 5(1-2) (Jan.-April. 1970); A. A. Mazrui, "Violent Contiguity and the Politics of Retribalization in Africa", Journal of International Affairs 23(1) (1969); Paul Mercier, "On the Meaning of Tribalism in Black Africa", in Pierre van den Berghe, ed., Africa: Social Problems of Change and Conflict (San Francisco, 1965) などがある。

18) Bujra, op. cit., p. 150.

19) 文化人類学による政策論的アプローチは，D. イーストンの行動論以後の政治学の影響を受けた Maxwell Owusu, "Policy, Development and Political Anthropology", Journal of Modern African Studies 13(3) (Sept. 1975): 367-381. の研究がある。また，政治的意思決定作成の分析視点については，Adam Kuper, "Council Structure and Decision-making", in Audrey Richards and Adam Kuper eds., Councils in Action (Cambridge: Cambridge University Press, 1971), pp. 13-28. を参照されたい。

20) 有賀喜左衛門「社会関係の基礎構造と類型の意味」『社会学研究』（日本社会学会編）第1巻第1輯，昭和22年，高山書院，5-6頁。（『有賀喜左衛門著作集Ⅷ』未来社，1969年所収）

21) 前掲書8頁。

22) 脚註(10)『アフリカ社会の形成と展開』ii 頁。

23) 有賀喜左衛門，前掲書，23-34頁。

24) Alex Weingrod, "Patrons, Patronage, and Political Parties", Comparative Study of Society and History 7(4) (Oct. 1968): 377-400; René Lemarchand, "Political Clientelism and Ethnicity in Tropical Africa: Competing Solidarities in Nation-Building", American Political Science Review 66(1) (March 1972): 68-90; James C. Scott, "Patron-Client Politics and Political Change in Southeast Asia", American Political Science Review 66(1) (March 1972): 91-113; René Lemarchand and Keith Legg, "Political Clientelism and Development", Comparative Politics 4(2) (Jan. 1972): 149-178; Richard Sandbrook, "Patrons, Clients, and Factions: New Dimensions of Conflict Analysis in Africa", Canadian Journal of Political Science 5(1) (March 1972): 104-119; S. N. Eisenstadt and Louis Roniger, "Patron-Client Relations as a Model of Structuring Social Exchange", Comparative Studies in Society and History 22(1) (Jan. 1980): 42-77.

25) Giovanni Sartori, Parties and Party Systems: A Framework for Analysis (Cambridge: Cambridge University Press, 1976), pp. 3-13. において，ファクションと政党の意味論的分析がなされている。

26) Norman K. Nicholson, "The Factional Model and the Study of Politics", Comparative Political Studies 5(3) (Oct. 1972): 292-296.

27) St. Clair Drake, "Traditional Authority and Social Action in Former British West Africa", Human Organization XIX (Fall 1960): 150-158; "Representative Government and the Traditional Cultures and Institutions of West African Societies", in H. Passin and K. A. B. Jones-Quartey, eds., Africa: The Dynamics of Change (Ibadan: University Press, 1963), pp. 9-33.

28) Jacques Maquet, Power and Society in Africa (London: Weidenfeld and Nicholson, 1971). 小田英郎訳『アフリカ—その権力と社会—』平凡社，昭和48年，18-26頁。

29) Samuel P. Huntington and Joan M. Nelson, No Easy Choice: Political Participation in Developing Countries (Cambridge: Harvard University Press, 1976), pp. 10-16, 53-64.

30) 首長制社会の歴史的な系譜関係（歴史性 historicité）によって，中央と周縁に位置する首長層の間では，<伝統的>な社会関係の形態の擬装としての政党の政治対立がファクションを生みだす。中央と周縁のダイナミックスは，外部的な政治的文脈によって転換され，周縁と中央の関係になる。

cf. John Dunn and A. F. Robertson, Dependence and Opportunity: Political Change in Ahafo (Cambridge: Cambridge University Press, 1973); John Dunn, Political Obligation in its Historical Context: Essays in Political Theory (Cambridge: Cambridge University Press, 1980);

30) Current political alignments among the Ahafo chiefs

Chiefs (1969)	Pro-Ashanti	Pro-Kukuom	Political party c. 1958	Deposed between 1957-66	Member of the Kukuom-Ahafo State Council	'The most im portant chief in Ahafo'
	1	2	3	4	5	6
Mim	1		NLM	4		Self
Aboum	1		NLM			Sankore
Acherensua	1		NLM			Self
Asufufuo	1		NLM	4		..
Goaso	1		NLM	4		Self
Gyedu	1		NLM*		5	Ntotroso
Kenyase 1	1		NLM	4		..
Kwakunyuma	1		NLM	4		Mehame
Kwapong	1		NLM			..
Mehame	1		NLM*	4		..
Nkasaim	1		NLM	4		..
Noberkaw	1		NLM	4		Self
Ntotroso	1		NLM			Self
Sankore	1		NLM	4		Self
Sienchem	1		NLM	4		Self
Akrodie	1		CPP		5	Kukuom
Fawohoyeden	1		NLM*		5	..
Kenyase 2	1		CPP		5	Mim
Wamahinso	1		CPP			Kukuom
Hwidiem		2	NLM	4		Kukuom
Anwiam		2	CPP			Kukuom
Ayumso		2	CPP		5	Kukuom
Dadiesoaba		2	CPP		5	..
Dantano		2	CPP		5	Kukuom
Etwineto		2	CPP		5	Kukuom
Kukuom		2	CPP		5	Self

* CPP member after 1962

Source: A. F. Robertson, "Histories and Political Opposition in Ahato," Africa 43(1) (Jan. 1973): 44.

Alessandro Triulzi, "The Ashanti Confederacy (Asanteman) Council, 1935-1957", Field Notes: Adansi-Kumasi Project, Institute of African Studies, University of Ghana and Program of African Studies, Northwestern University, 1969.

31) Meyer Fortes, "Strangers", in Meyer Fortes and Sheila Patterson, eds., Studies in African Social Anthropology (London: Academic Press, 1975), pp. 229-253.

32) Enid Schildkrout, "Strangers and Local Government in Kumasi", Journal of Modern African Studies8 (2) (July 1970): 251-269; "Government and Chiefs in Kumasi Zongo", in M. Crowder and O. Ikime, eds., West African Chiefs: Their Changing Status under Colonial Rule and Independence (New York: Africana, 1970), pp. 370-392; "Economics and Kinship in Multi-Dwellings", in Jack Goody, ed., The Changing Social Structure in Ghana (London: International African Institute/Oxford University Press, 1975), pp. 167-179; People of the Zongo: The Transformation of Ethnic Identities in Ghana (Cambridge: Combridge University Press, 1978); Kwame Arhin, "Strangers and Hosts: A Study in the Political Organisation and History of Atebubu Town", Transactions of the Historical

Society of Ghana XII (1971): 63-82.

33) Seymour Martin Lipset, The First New Nation (New York: Basic Books, 1963) 内山秀夫・宮沢健訳『国民形成の歴史社会学—最初の新興国家—』未来社，1971年，42-43頁。

34) 都市の貧困層の比較政治学の観点からの分析については，Joan M. Nelson, Access to Power: Politics and the Urban Poor in Developing Nations (Princeton: Princeton University Press, 1979) を参照されたい。

35) Anthony D. Smith, Social Change (London: Longman, 1976) の Chapter 7 "Social Theory and Historical Processes", pp. 122-139. を参照。

(1981年9月27日脱稿)